

効果的な医療安全情報の共有化をめざし

仙台社会保険病院

医療安全対策室、医療情報室

はじめに

問題解決型アプローチ

すべての職員に対し、

- インシデントアクシデント経験の共有
- インシデントアクシデント活用
- 分析から改善策を導く
- 学びと実践に結びつける

参考:「安全な医療を提供するための10の要点」

仙台社会保険病院概要

病院理念

「良質で安全な思いやりのある医療」

病床数 420床 職員数:610名

IT環境

院内LANが整備されている

電子カルテ・オーダーリングシステム未導入

インシデント報告数 900～1000件/年

開発・研究期間平成17年1月から8月



目的

- 医療安全活動の活性化と効率化

<コンセプト>

Safe Master = 安全を教える（道具）

<利用効果>

安全に対する知識向上

リスク感性の向上

安全への意識改革

医療安全活動に全職員が参画

導入前に予測された問題点

- パソコン操作が苦手な職員は、システム操作が
できないのではないかと？
- 記述報告内容が短文になるのではないかと？
- パソコンを使ってインシデント報告を行なうと報告
件数が減るのではないかと？
- 職員がパソコンで報告を見たり、学習する時間
が持てるのか？

導入方法・経過

- 開発メンバー 医師・看護師・薬剤師・事務職員
- 平成17年6月 各部署2名(全体数で約70名)に操作方法を指導(延べ10日間)
- 指導を受けた職員が各部署内でシステム操作指導・普及にあたった
- 平成17年6月～8月 パソコン端末から入力練習を開始(約3ヶ月間)
- 操作練習をしながらシステムの機能調整
- 平成17年9月～ システム本稼動

インシデント報告第26号

インシデント 30分の部屋にて委員会が公開中！

社会安全協議会 医療安全推進委員会 全業日2016年2月22日版

薬剤小委員会報告

指示変更に伴うアクシデントが発生しています。特にインスリンの実施に関する事例が多いようです。インスリン施行時には「指示が確かなもの（注射器）」で確認、実施して下さい。また、投与に関する事例の中には患者からの指摘で未然に防げた報告もあり、投与時には患者様に話すだけでなく、必要性や目的を付け加える事が大事だと思います。

診療行為小委員会

貸出したカルテが戻って来ていない事例が報告されました。再来はもちろん、急患来院時には特に必要性が問われる事もあり、迅速に返却することを心掛けて下さい。また4月からは平成15年に制定された個人情報保護法が施行され、情報の漏洩や秘守義務を怠ることは法的に罰せられますので、管理の重要性を再確認して頂きたいと思います。

ナーシングケア小委員会

アリメポンプ使用時にクレンメが閉じていたままという事例が3件発生し、同様の事例報告が続きました。アリメポンプ使用時には「ボトル・ライン・クレンメ・ポンプ・三活・エクステンション・刺入部」を1つも欠かさずチェックする事が大切です。

転倒・転落防止小委員会

粉末が散乱し、足を滑らせ転倒した事例がありました。環境整備が不十分であった為に起こった事例であり、5Sの徹底が必要と思われます。

ベットの柵を4本使用したにも関わらず、足元から転落する事例がありました。柵を4本使用したから安心とはいえないので、観察は十分に行ないましょう。

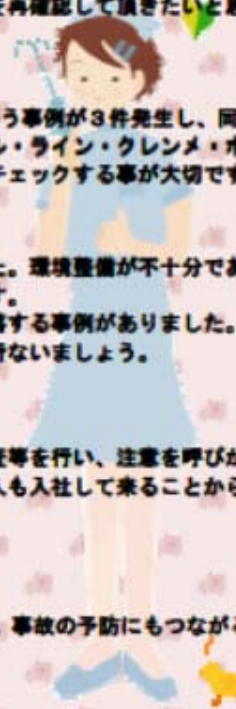
高レベル小委員会

針刺し事故防止マニュアルの掲示やアンケート調査等を行い、注意を呼びかけて来ましたが、針刺し事故が減少しません。4月からは新人も入社して来ることから、改めて気を引き締めましょう！

その他

各部署で5Sに基づいて整理整頓を行なっています。事故の予防にもつながるのでご協力をお願いいたします。

※ この新聞は2月の委員会を基に制作されています。小委員会での発行が遅れましたことをお詫びいたします。



結果

- システム操作はレベルの差はあるが、問題なくできた
- インシデントアクシデント報告は導入前より13%から17%増加した(9月・10月)
- インシデント記述報告は導入前平均244文字から、導入後平均1236文字に増加
(導入前後無作為抽出各10報告、文字カウント平均)
- 勤務時間外にシステムを活用しているが、勤務場所での活用に限界がある

考察

- 情報をリアルタイムにフィードバックする
リスクに対する感性を高める
情報が安全教育の教材になる
- 事故に至った経緯や経過を知る
インシデントを自分の身において考える
将来遭遇するものとして心に構える
危険予測のための知識として習得する

まとめ・今後の課題

まとめ

- インシデント報告件数は高まった
- 報告されたインシデント内容への関心が高まった
- 全職員が医療安全情報を安易に得られる環境
- 医療安全への参画への意識改革につながった

課題

- 研修コンテンツ効果と利用評価
- 継続した評価と活用方法の継続
- 部署内以外の休憩時間・勤務時間内外にパソコン操作に専念できる場所の検討